

○平成29年に法人化。カーネーションを年間約72万本生産するほか、加工品製造や体験農園、花のオーナー制度などを通じて関係人口の拡大に貢献。コロナ禍を転機に、新たな地域の産品として唐辛子生産を開始。

基本情報

- 所在地：佐賀県唐津市
- 選定表彰：
 - ・佐賀県花き園芸共進会 農林水産大臣賞 (H27)
 - ・佐賀農業賞 九州農政局長賞 (H26)
 - ・全国青年農業者会議 経営局長賞 (H19)
- 主力商品・イベント：
 - ・カーネーション、唐辛子の加工品
 - ・唐津花の大学
 - ・航空会社とコラボしたギフト商品
 - ・唐津ピリカラ協会発足イベント
- 活用した支援施策：
 - ・さがアグリヒーローズ (さが農村イノベーション推進事業)
 - ・さが農村ビジネス支援事業

取組の概要

- 花のオーナー制度「唐津花の大学」を開設し、県内外から受講生（オーナー）が参加。
- カーネーションを活用した加工生花、フラワーボックス等の販売、体験農園等を展開。
- 新たに唐辛子の生産を開始し、加工品を開発・販売。県内の唐辛子生産農家、飲食店等を会員とした「唐津ピリカラ協会」を発足し、新たな産品として定着を目指す。
- 花き、唐辛子の生産・出荷調整作業の一部を福祉事業所と連携。
- 『協業』をキーワードに、契約栽培の推進、農地や雇用の課題解決への取組を進める。



唐辛子加工品

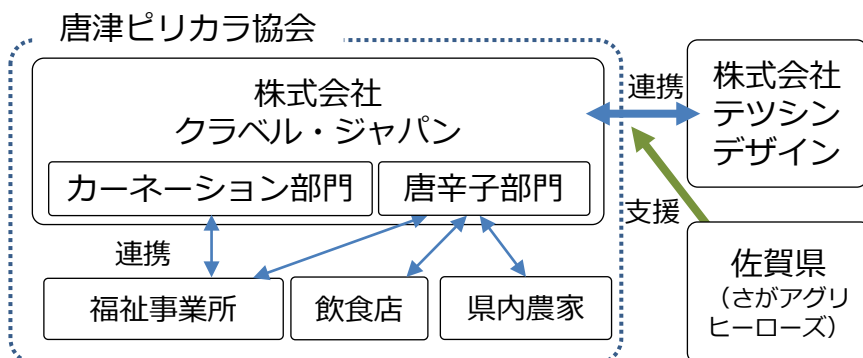


唐津ピリカラ協会



唐津花の大学

体制図



取組の成果

- カーネーション：フラワーボックス等ギフト商品 10種類
- 「唐津花の大学」受講生 のべ53組 (R1~3)
- 福祉事業所との作業連携（雇用創出） のべ12事業所180名
- 「唐津ピリカラ協会」による地域活性化（生産者と飲食店との連携）

ウェブサイト▶<https://clavel-japan.jp/>

○平成12年に農業交流拠点施設「おおむら夢ファームシュシュ」を開業。農産加工品の製造・販売（6次化）のほか、食育体験や収穫体験など豊富なメニューで取組を展開。雇用拡大などを実現。

基本情報

- 所在地：長崎県大村市
- 選定表彰：
 - ・令和3年度農林水産祭「天皇杯」多角経営部門
 - ・令和2年度6次産業化優良事例表彰農林水産大臣賞
 - ・第6回「ディスカバー農山漁村の宝」(R1)
 - ・平成19年度全国地産地象活動優良表彰（交流促進部門）農林水産大臣賞
- 主力商品・イベント：ジェラート等、食育・農林漁業体験
- 活用した支援施策：
 - ・農業構造改善事業（施設立ち上げ時）

取組の概要

- 農業テーマパーク構想の実現のため、一年中観光客が訪れる交流拠点「おおむら夢ファームシュシュ」を開業。
- 地元農産物(生鮮品)のほか、6次化による商品開発でジェラート、プリンなど多数商品化し販売。レストランではランチバイキングやレストランウェディングなどを提供。
- 大村市グリーン・ツーリズム推進協議会と連携した観光・体験農業を展開。
- 大村市のふるさと納税の返礼品として、農産物の詰め合わせや加工品等を出品。



おおむら夢ファームシュシュ

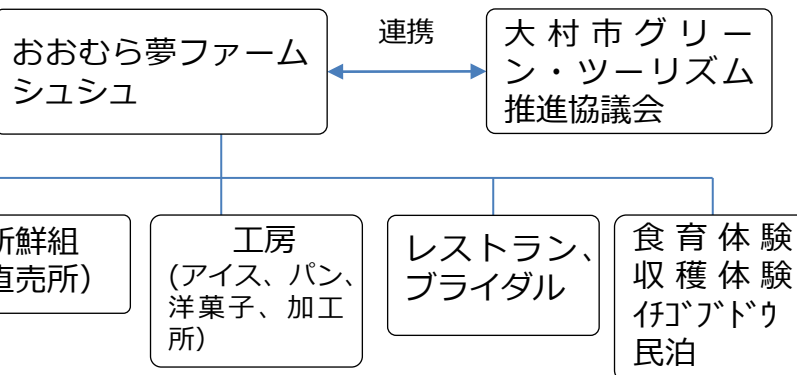


地元産の農産物を使用したジェラート



農産物を使用したオリジナル加工品

体制図



取組の成果

- 6次化による売上高：3.2億円（H26）⇒ 3.9億円（H30）
- 年間集客数：約49万人（H30）
- 食育・農業体験者数：約3万人（H30）
- 従業員：年間100名以上（季節雇用含む）
- 常時雇用職員の女性割合：8割

ウェブサイト▶<http://chouchou.co.jp/>

株式会社 高千穂ムラたび

地域資源：農林水産物、景観、廃校、空き家
 事業分野：食品、観光・旅行、健康・医療、イベント
 事業主体：観光協会、福祉作業施設、まちづくり公社

○自社独自の方法で栽培された米を地元農家から高値で買い取り、発酵食品等に加工し販売するほか、棚田などの景観や地域の神話史跡などを情報発信し、外国人等の観光客を誘致することにより地元経済の活性化にも貢献。

基本情報

- 所在地：宮崎県高千穂町
- 選定表彰：
 - ・みやざきフードアワード審査員賞（R3）
 - ・フードメッセ新潟 準グランプリ（H30）
- 主力商品：
 - ・米加工品
- 活用した支援施策：
 - ・農山漁村振興交付金（農泊推進対策）（R1～2）
 - ・GFPグローバル産地づくり推進事業（農林水産省）（R2～4）

取組の概要

- 地元農家に対し、米の栽培方法と買取基準を策定、一般の買取価格の約1.3倍で米を買取。甘酒、どぶろくのほか、米ぬかを活用したお菓子、ペットフード等の商品を製造・販売し、輸出にも取り組む。
- 大学生による米などのパッケージデザインをはじめ、若者による6次化商品の開発、販路開拓、プロモーションなどの事業体制を構築。
- 棚田の景観や、地域の神話史跡などを活かした観光商品の開発を行い、メディアやSNSを通じて情報発信。
- 海外の旅行会社と提携し、アジア圏域やヨーロッパからの旅行者が神楽を体験するインバウンド向けの事業も実施。



米発酵飲料「ちほまる」

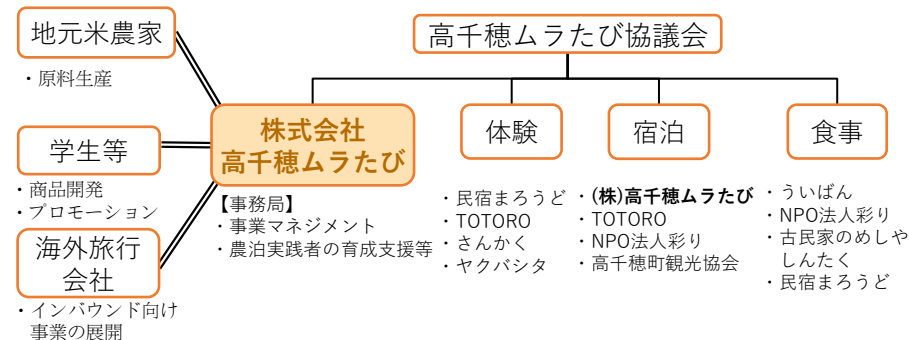


甘酒等の原料栽培で棚田保全



古民家食堂で夜神楽と食を楽しむ外国人観光客

体制図



取組の成果

- 加工品・宿泊等による法人の売上：65百万円（H29）→ 98百万円（R4）
- 甘酒等の加工品の売上：63百万円（H29）→ 89百万円（R4）
- 甘酒・菓子の輸出額：280万円（R1）→ 480万円（R4）
- 民泊・ゲストハウス等利用者数：207人/年（H29）→ 227人/年（R4）
- 若者の研修受入（人）：5人（H27）→ 80人（R4）

※新型コロナウイルスの影響により全体的に数値が落ち込み、R4時点も回復途上

ウェブサイト▶ <http://takachiho-muratabi.com/>

地域資源：農林水産物、家畜
 事業分野：食品、観光・旅行、健康・医療
 事業主体：生産者、大学、学校・保育園、市、県

○「すべての人々の生活に健康と美容と癒しを届ける」という理念の下、提携農家とともに宮古島の環境に適したアロエベラを栽培し、加工品の開発・製造を行う。自社農園ではヤギに雑草を食べさせフンをたい肥にして畑に戻す循環型農業を実現するとともに、ヤギと触れ合える観光牧場や、アロエ商品を中心とした土産店やカフェも展開。

基本情報

- 所在地：沖縄県宮古島市
- 選定表彰：
 - ・ 6次産業化アワード食料産業局長賞（R1）
 - ・ 第7回「ディスカバー農山漁村の宝」（R2）
 - ・ 地産地消等優良活動表彰大臣官房長賞（R3）
- 主力商品・イベント：
 - ・ アロエ及びアロエ加工品
 - ・ 蜂蜜 ・ ヤギのいる観光農園
 - ・ オンライン体験（アロエの食べ方・育て方教室）
- 活用した支援施策：
 - ・ 沖縄県離島デジタル広報・販売スキル向上事業
 - ・ 沖縄県農林水産物流通条件不利性解消事業

取組の概要

- ヤギを活用したアロエベラの有機栽培とともに、加工品（ジュース、美容ドリンク等）を開発・製造。アロエベラは通年収穫可能なため、雇用創出にも貢献。
- 2020年には牧場に隣接した場所にアロエベラと地元産マンゴー等のフルーツを使ったジュースやスイーツの提供、加工品等の販売を行うカフェをオープン。
- 地域の農家が農産物を販売できるよう直売所を開設し、地元の学校給食での提供や地産地消の推進や農家の所得向上にも貢献。



ヤギとアロエベラ

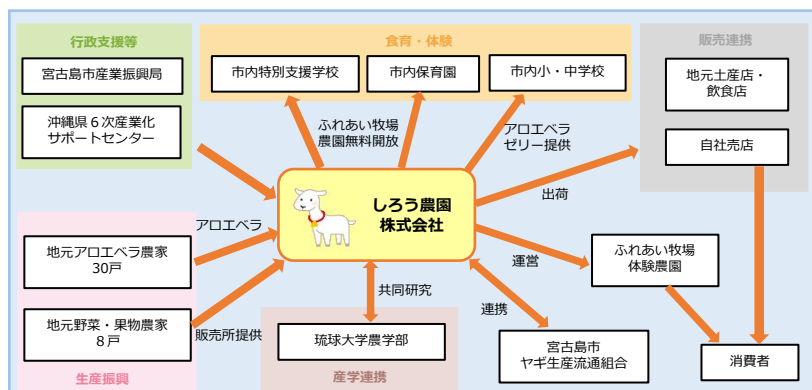


ふれあい牧場に併設するカフェ



しろう農園の従業員

体制図



取組の成果

- 直売所開設により売上が年間100万円増
- アロエ取扱額が10年間で8倍
- 従業員15人中10人が地元出身
- アロエ栽培面積が約15ha（国内最大規模）
- ヤギ30頭以上の観光農園により集客

ウェブサイト ▶ <http://shirou-nouen.net/> ▶ <https://www.goatcafe.jp/>

株式会社 沖縄UKAMI養蚕

地域資源：農林水産物、廃校、荒廃農地
事業分野：福祉、健康・医療
事業主体：就労支援事務所、地元企業

○地域の生物資源「エリ蚕（神樹蚕）」から生産された沖縄シルクをスキンケア商品として加工し、ブランド化してフランスや中国にも進出。養蚕と飼料生産に廃校と荒廃農地を活用するほか、養蚕施設の整備や飼料生産のために高齢者雇用、蛹と繭の選別のために農福連携に取り組むなど、地域の資源と人材を活用。

基本情報

- 所在地：沖縄県今帰仁村
- 選定表彰：
 - ・第9回「ディスカバー農山漁村の宝」(R4) ビジネス・イノベーション部門 グランプリ
- 主力商品・イベント：
 - ・シルク製品（化粧品、ダイエット食品等）
- 活用した支援施策：
 - ・農山漁村振興交付金（農泊推進対策）

取組の概要

- 今帰仁村内の廃校舎を活用し、エリ蚕の養蚕を開始。エリ蚕の餌のキャッサバ栽培圃場は耕作放棄地を活用しており、現在3.7haを借り受け、遊休地解消に貢献。
- 高齢者雇用のほか、養蚕の作業である蛹と繭（＝シルク）との分別を就労支援事業所と連携して実施。高齢者、障害者の活躍の場を広げ所得向上に貢献。
- フランスで自社ブランド「VILANJE（ヴィランジェ）」商品の販売を開始。R元年6月に国内大手通販会社、R3年12月に大手百貨店（東京・名古屋）、R4年6月には名古屋市内に販路を拡大。R2～4年度はコロナ禍の影響を受けたが、中国にリアル店舗を持つ大手百貨店越境ECサイトでの販路を獲得し、発信を続け認知度向上につなげている。



廃校を活用した作業場



荒廃農地を活用したキャッサバ畑

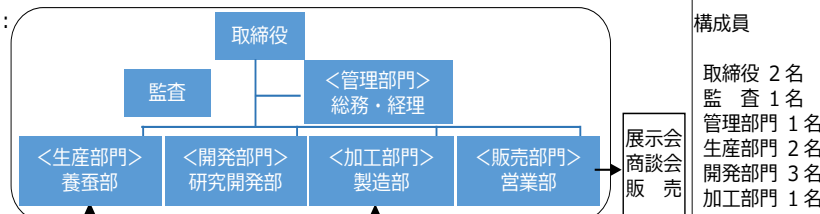


フランスでの
自社ブランド商品

体制図

設立年：平成18年4月（沖縄県へ本店移転 平成25年4月）

組織図：



構成員

取締役 2名
監査 1名
管理部門 1名
生産部門 2名
開発部門 3名
加工部門 1名

取組の成果

- 売上：約400万円（R1）→ 約1,600万円（R4）
- 荒廃農地の活用：1.3ha（H29）→ 3.7ha（R4）
- 就労支援B型事業所との連携：10回（H29）→ 26回（R4）
- 高齢者雇用数：2人（H29）→ 5人（R4）

ウェブサイト▶<https://www.ukami.co.jp/>